

浄土

monthly JÔDO

2021
April

4

令和3年

vol.87

no.952

〔新連載〕
書き下ろし小説「式子内親王遺文」 石丸晶子



〔好評連載〕
漫画祖師伝「聖光上人」その3 ぐんじまん
〔寺院紀行〕
山梨・甲府 教安寺 真山剛

法然上人鑽仰会

古物漂流

文と写真 ● 三宅政吉
(グラフィックデザイナー)

連載3 エルジンの懐中時計

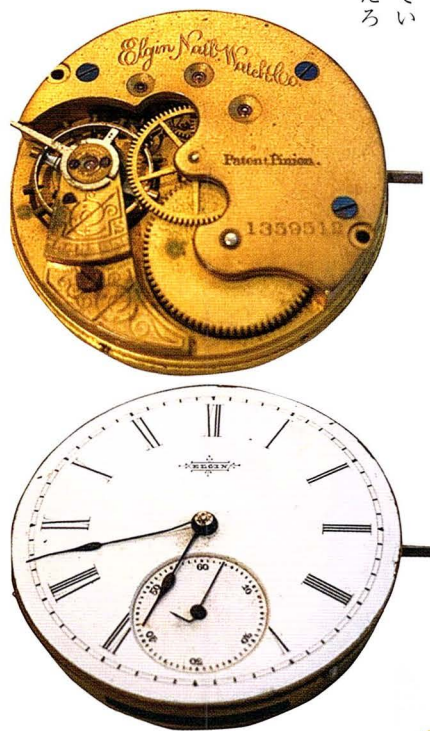
歯車や発条、錆びた鉄板などを使ってオブジェを作っている関係で、そういった物を取り扱っている店を数軒知っているがどの店も値段が高い。ネットで調べてみたら、新御徒町に面白そうな店がある。インテリアデザインー兼建築家が、趣味で海外の古い時計や装飾品、鉄くずなどを扱っている店だ。訪ねてみた。傾向としては、スチームパンクの資材としての歯車や、鉄製の用途不明の装置などを中心にした品揃えである。

スチームパンクとは、一九八〇年代から九〇年代初めごろにかけて流行したSFのジャンルである。エネルギーとして蒸気機関を中心とした、イギリスのヴィクトリア朝やエドワード朝の雰囲気をもつ世界観に基づいている。興味のない人にはなんのことやらわからないだろうが、このダークな世界の愛好家は若者に結構多い。またファッションやメイクなどの領域にも、その独特な美意識は生かされたりもしている。

写真はアメリカ合衆国のエルジンという時計メーカーの懐中時計である。エルジンは一八六四年に設立された。一九五〇年代以前の最盛期には、アメリカを代表する時計メーカーだったが、国内の時計産業の衰退とともに六八年に消滅した。

写真でもわかるように蓋と底は失われている。残っているのは本体部分と文字盤である。店主によると底と蓋には貴金属が含まれているので、どうしても外されてしまわうらしい。私は蓋や底よりも、歯車や文字盤が好きなのでかまわないよと二〇〇〇円で買った。これは小さな歯車を五個ほどおまけにつけてもらったの値段である。懐中時計の構造としてはすでに完成した形で、これ以上の大きな変化はその後見られないらしい。左半分にむき出しの歯車が見え、右半分は金属板に覆われている。その中央から少し下に刻まれた1359512の数字は、この時計のシリアルナンバーである。調べると一八八〇年代に製造されたものと判明。

動きもしない時計を眺めてなにが楽しいのかという声も聞こえてきそうだが、スチームパンクにはそれほど惹かれはしないが、真鍮の色といい、むき出しの歯車といい私の好みなのである。



時計の直径は38mm。細部がわかるように実物よりも大きくしている。



おまけの歯車。
中央の歯車の直径は17mm。
懐中時計に使われていたものかどうかは不明。

山梨・甲府

教安寺

寺に歴史あり
人々に信仰あり
日本の
心の故郷を紀行する

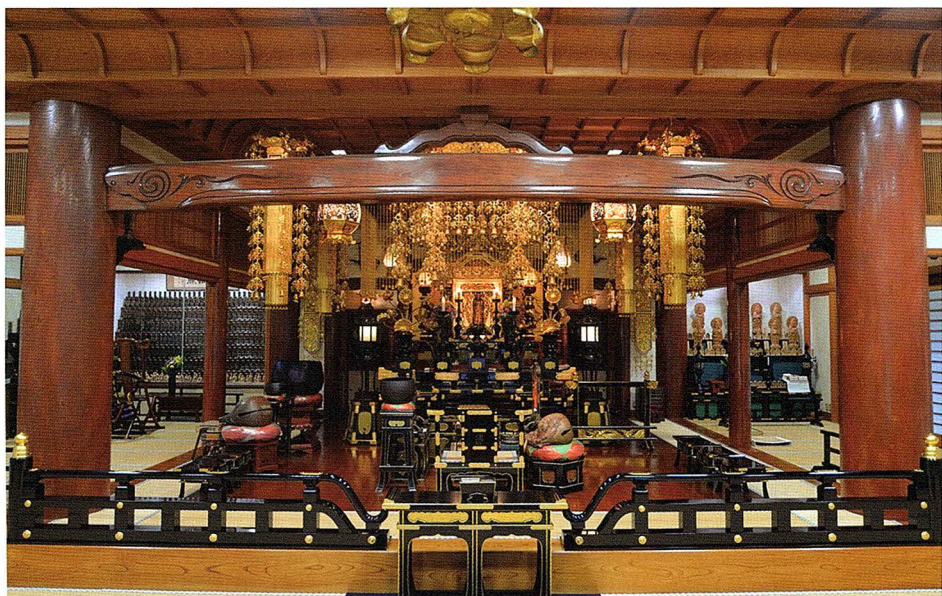
寺院紀行



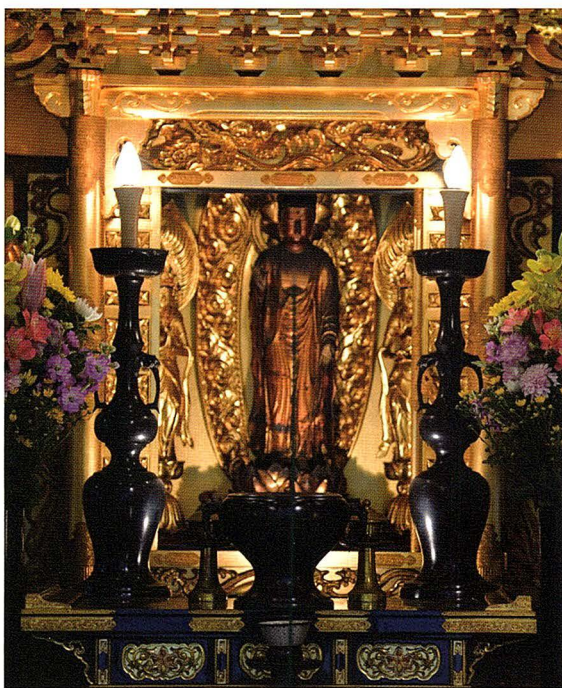
教安寺第三十三世高柳了志住職



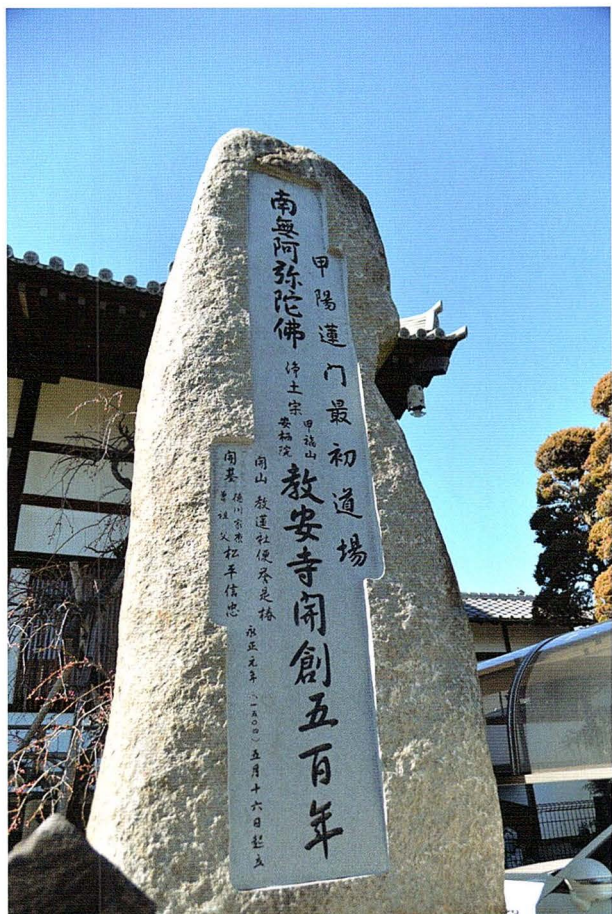
甲福山安栖院教安寺本堂



教安寺の本堂内陣



本尊、阿弥陀如来立像



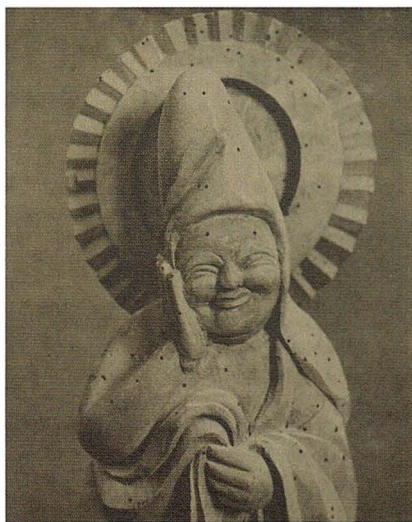
教安寺由緒が彫られている石碑が本堂前にそびえている



徳川家との縁を今に伝える
仙千代の御霊廟

大本山増上寺御忌大会
お代理導師の委嘱伝達は改めて
令和2年11月に行われた





木喰上人が最後に彫った
木像の写真



歴史ある梵鐘は本堂前の
鞘堂に安置されている



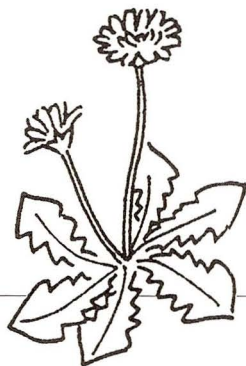
甲府駅前の武田信玄像

浄土

2021/4月号 目次

カラグラビア=寺院紀行 山梨・甲府 教安寺	1
新連載 書き下ろし小説「式子内親王遺文」	石丸晶子 6
寺々刻々⑨ 閉鎖したコロナ感染寺院の現場から ...	鶴飼秀徳 14
寺院紀行 山梨・甲府 教安寺	真山 剛 18
漫画「浄土宗のお祖師様」二祖聖光上人③	ぐんじまん 26
連載インド紀行⑩「ヴァイシャリ」	佐藤良純 29
江戸 日本の街道探訪 第3回	森 清鑑 33
『浄土』掲示板	佐藤春夫 40
みんなの境内 なぜ『往生要集』を書いたか	阿満利磨 41
ぶつぶつ放談「他宗派を知ろう・天台宗 その2」	42
微風吹動「おじいさんの道草」—モアリズム「笑う花」より— ...	工藤量導 50
『浄土』アーカイブ 法然上人鑽仰会の経過 後編	
中里介山氏の還愚のすすめ	佐藤賢順 54
編集後記	56

表2 古物漂流③	三宅政吉
----------------	------



表紙題字=中村康隆元浄土門主
表紙写真=若林隆壽
アートディレクション=近藤十四郎

連載
小説

式内遺

親子文

王

その
1

絵

石丸晶子

啞々砂

いしまる・あきこ 1935年東京生まれ。
東京大学文学部、同大学院卒業。近代文学
を専門とするが、日本古典の著作も多く、
1991年、『式内親王伝』（朝日新聞社）
で紫式部文学賞を受賞。東京経済大学名誉
教授。著書に『お手紙からみる法然さま―
そのお人柄』、短編小説『月影の使者』（と
もに浄土宗出版）など多数。



今、侍女の大納言が、師父法然房様への私のお見舞いを持って、東山の師父の御許へ参上した。

心からのお見舞いの言葉に大炊御門邸内おおいみかどていないに咲く八重桜を添え、東山のご庵室に遣わしたのである。方一町ほういちちやう（109メートル四方・3000坪）の鬱蒼と茂る樹木に囲まれ、ひっそりした大炊の邸やういではあるけれど、数多くの樹木には四季ごとに花が咲き、草花が咲き匂う。紅白梅の梅樹が咲く季節は過ぎ、今、邸内は八重匂う桜の匂いに包まれている。

これも定め無き人の世の常というのである。うか、先ほど、私が過ぎていったわが人生を振り返りつつ文机ふづきに向かっていると、急ぎ足でやって来た侍女大納言が膝を付き、この月の六日、法然房様に長くお仕えしていた御弟子みでし真観房しんくわんぼう感西様が、四十八歳で浄土に旅立たれたそうでございます、と伝えたのである。「真観房様はお上人様がまだ比叡山にいらっしやいました頃からの愛弟子で、お上人様は

『わたしを置いて先に行つてしまわれるのか』と、それは深くお嘆きになり、涙された由にございます」という。

六日といえば、三日前になる。邸に仕える下々のものしもしもが、東山のお台所にいる女たちから聞き出したのだとのこと。

法然房様は最初にお目見えして以来、年に数度、私の願いにお応えくださり、浄土のみ教えの真なることをお教えに来てくださっている。その時、御弟子のどなたかを伴つて来られるのだけれど、真観房様を伴われたことが何度かあった。師父の十六歳年下である私よりもさらにお若く、慎み深く真摯な、そして何よりも師父を心からお慕いしていることが立ち居振る舞いにも表れる御弟子であつた。あのお方が突然のように浄土へ旅立たれたとは。まだ若くして師に先立ち、浄土へ旅立たれた真観房様のお心も、お年下の愛弟子に先立たれた師父の御悲しみも、いかばかりであろうと、驚きとともに悲しみが私の胸にも

迫ってくる。

真観房様が浄土へ旅立たれた日を記しておかなければならない。今から三日前というから正治二年（1200）閏二月六日。初めに記したけれど、大納言からこのことを伝え聞いた丁度その時、私は文机ふづくえに向かい、生きてきた五十二年のことも形見に記しておこうとしていた。

真観房様は昨年暮れからの病であられたという。そして私はいえ、昨年夏あたりから体調がすぐれない。どこが悪いというのでもないが、熱っぽく体がだるい日がつづくと思っていたら、暮になって肩や乳房に小さなしこりを手に感じるようになった。医師の見立てでしこりがある部分を冷やしたりしていたけれど一向に快復しない。

さらにその矢先、私がまだ二十代で、母高倉三位成子くらさんみしげことともに三条高倉第さんじょうたかくらだいに住んでいた頃から今に至る長い年月、私の後見をしてくれている吉田経房よしだつねむさが、やはり昨年暮れから病

み、死期が近いのを知った彼は今年早々家し、大納言によると、周囲の者たちは今日明日の命ではと憂いているという。

いや、それどころか、わが師父法然房様けんさうご自身が三年前の建久八年（1197）以来、病みがちに生まれ、二年前の春・夏にはご病状悪化、遺言までされたのであった。ようよう快方に向かわたのは秋八月。この日々、私は悲しみに悲しみ、苦しみに苦しんだ。始終、使いの者にご病状如何を尋ねさせ、一喜一憂する中、私もしばしば大炊御門おおいみなどの邸内に咲く季節の草花や、梅や桜などの樹に咲く花々に、お手紙を添えてお届けした。

師父のご存在なくして、そのお導きなくして、どうして私は生きていられようぞ。血で血を洗う乱世に漂い、生きた心地もなくなった薫香くんかうを焚き染め、琴を弾くことで気を紛らわせていた私の空虚な心に、一縷の明かりをともし、孤独な私の生きる支柱となってくださったのが師父であった。



加えてさらに、師父のみ教えをわが身わが心に享けたことよつて、私の世界は狭いながらも如何に広くなつたか計り知れない。お弟子たちや市井の男女が群がり集つてゐるといふ東山ご庵室の賑わい。近頃では鎌倉の頼朝に従つて上洛した関東の武士たちも、師父を慕つてご庵室を訪れるという。

市井の男女たちのそんな噂を、邸の下仕えの者たちが持ち帰つては侍女たちに伝えてくれる。

家司（注・式子内親王家執事）の藤原定家などはそれを、「衆生も往生できるとはけしからぬ僻事だ。往生できるのは真言・天台の行法によるのみ。無智蒙昧の輩ゆえに念仏にすがつてゐる。これぞ末世のしるしである。誠に嘆かわしい」と実姉の大納言にこぼしてゐるそうだけれど、定家のほうこそが、廣大無辺、限りなく広い世界と、深遠な仏の世界を知ろうとせぬ輩ではないのか。

そう思うのだけれど。

以前こんな歌を私は詠んだことが思い出される。

浮雲を 風にまかする 大空の
行方も知らぬ 果てぞ悲しき

この果てしなく広がる大空の謎。若い日々からこの謎を思つて私は悲しんできた。

果てしない大空が秘める深遠な謎を、人の技に過ぎない真言や天台の行法で調伏できるのであるか。仏教界を取り締まる弟の仁和寺御室の法親王守覚は、行法はみな、仏たち自身がお決めなつた靈験あらたかな惡靈調伏の技であり、だからこそ、聖徳太子のみ代に仏の教えが伝来して以来、代々の天皇家も貴族たちも帰依しているのですと説き、真言の加持祈禱に頼ろうとしない私を常日頃責めてゐる。

御室に言わせると「信じる心の薄い」私は、しかし、乱世に生を享けて心のよりどころを

持たず、頼りにできるお方も、そして愛する
お方とでもなく、齋院退下後の長い歲月、い
のちと人の世の空しさ、凄まじい乱世の姿に
たじろぎ、恐れおののいてもいた。自分が生
きているのか死んでいるのか、実感がない。
ただ、邸内の簾に囲まれた私の座所に終日引
きこもって薫香を焚き染め、空ろな命の代償
でもあるかのように琴を弾いていた。
「まあ、齋院様さいいんさまといったら。とても激しい爪
さばきであられますこと」侍女などがよくそ
う言っていたことを思い出す。次の歌はあの
頃の歌である。

日に千たび 心は谷に 投げ果てて
有るにもあらず 過ぐるわが身は
始めなき 夢を夢とも 知らずして
この終わりにや 覚め果てぬべき

今年、私は五十二歳になった。師父法然房

様の御病をはじめ、真観房様のご逝去、今日
明日の命ではという後見・吉田経房のこと、
また老いを迎えた中での私自身の体調不調を
思えば、私が命果てるのも遠いことではない
と思う。

今、この思いが、強く私を制している。万
葉集や源氏物語の人々も経験しない凄まじい
乱世を生きた私なりの「いのちの形見」を書
き留めておきたいと思う。いや、書き留めて
おかなければならないのだ。

筆の跡に 過ぎにしことを 留めずは
知らぬ昔に いかで逢はまし

そう思う。今の世の人々が遠い万葉の昔を
知り、光源氏ひかりげんじの世を知ることができるのもみ
な、昔の人が筆にして残してくれたからでは
ないか。私もいにしえの人に倣い、というと
不遜かもしれないけれど、万葉の人々も源氏
物語の人々も知らなかった乱世に生きた女の

半生を書き残しておきたいと願う。

何から思い起こそうか。私の生涯を見渡した時、師父に巡り合えたことが最大第一の思い出であるけれど、このお出合いが如何に私にとつて生涯の一大事であり、生涯の思い出であるかを記すためには、やはり、凄まじい乱世にいのちを享けたこと、今は亡き後白河法皇の第三皇女として生を享け、賀茂の齋院に卜定されて十一歳から二十一歳までの十年間を、齋王として国と天皇家の安泰を神に祈る月日を送った思い出無しにはすまずことができない。

久安五年（1149）、私は父後白河・母藤原成子の三女として生を享けた。考えてみれば、師父を敬慕すること十年に余ると聞く摂関家の藤原兼実（九条兼実）も、この年に生まれている。

両親は従兄妹同士であった。姉二人（亮子・好子）・私・弟二人（仁和寺御室守覚・以仁王）

はみな年子である。姉二人は父の長女・次女であり、二人の姉ともに幼いうちに伊勢神宮の齋宮に卜定された。次姉好子は父後白河法皇崩御の年に亡くなったけれども、長女の姉亮子は、退下後、殷富門院の女院号をうけ、貴族社会の厚い尊敬を集めて今に至っている。長女であるせいか、父法皇の愛も細やかに深かった。三女に生まれた私はいえ、内親王の宣下を受け賀茂神社の齋院に卜定されたのは、保元の乱が勃発して三年になる平治元年（1156）十月で、私は十一歳であった。この保元の乱は、長く院政を掌つてこられた鳥羽法皇様が崩御され、時代が父後白河天皇と父の同母兄崇徳上皇との権力争いに、摂関家の兄弟争いが絡んだところに起きている。そして保元の乱の三年後の平治元年、これは私が齋院になった年であるけれども、私が齋院に卜定されてわずか二か月後の暮れ十二月、朝廷の近臣を巻き込んで平清盛と源義朝とが争う平治の乱が起きた。

今往時を振り返ってこの思いを深くする。二つの乱はともに、天皇家を巻き込んで血肉同士相争い、血で血を洗う内乱の世の始まりであつたと。

私はそんな騷擾のさなか、齋院となり、争乱をよそに神聖な御垣が二重に張り巡らされた紫野の齋院御所で清閑な明け暮れを送ることになった。朝夕、賀茂神社の方向に向かつて遙拝すること。賀茂祭の日に齋王となつて上賀茂神社と下賀茂神社に参拝すること。そして年に二度、六月と十一月の祭祀を執り行うこと。

これらが齋院に卜定された天皇家の女に課された務めであつた。後は齋院付き侍女たちに源氏物語や和歌、そして箏の手ほどきを受けたり、貝合わせを楽しんだり。

思い出せば、齋院としての暮らしは平家全盛を誇る世上の騒ぎからは守られ、諸々の危険からは守られた清閑な日々であつた。

しかし齋院となつて十年目の嘉応元年（1169）、二十一歳になつた私は年初から病み

勝ちになり、齋院に託されている務めを果たすことが出来なかつた。その為、志賀唐崎の御手洗川で禊ぎをして、齋院を退下することになつたのである。秋七月二十四日であつた。あの日、禊ぎする御手洗川に映る私の影さえもが消え去つてしまうような空ろな気持ちでいつぱいになり、船で琵琶湖に漕ぎ出して湖上で禊ぎする袖が、川波と流す涙とですっかり濡れてしまつたことを思い出す。

みたらしや 影絶えはつる 心地して
志賀の波路に 袖ぞ濡れにし

この歌は禊の翌日、退下した私の心境を「昨日はどうされましたか。大変でしたね」と双林寺宮が尋ねて来たのに対し、返歌として詠んだ歌である。

あれから三十年が経つてしまつた。

(つづく)

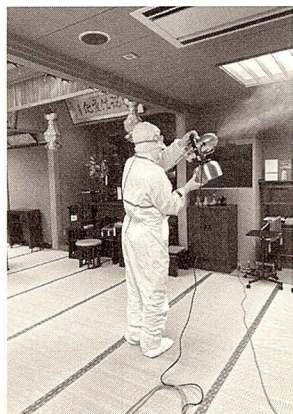
『寺院消滅』『教養としての仏教』著者

鵜飼秀徳の

寺々刻々

閉鎖したコロナ
感染寺院の現場から

本堂内、客殿の除染作業



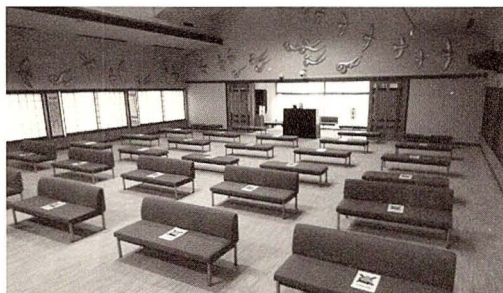
コロナ感染症の流行は仏教界への影響も少なくなく、僧侶が感染して亡くなった事例もあった。

「第3波」に見舞われた今年1月、筆者の知り合いの寺で集団感染が発生した。住職や寺族、寺に勤務する僧侶ら8人が感染。ここでは当事例を教訓にしつつ、寺院のBCP（事業継続計画）策定の必要性について述べていきたいと思う。

住職は「コロナ感染症は、誰もが罹患する可能性がある。コロナに罹っても差別を受けることなく、また、差別から生じる隠蔽などが起きない寛容な社会をつくりたい。あえて本名で明らかにしたい」と話してくれた。

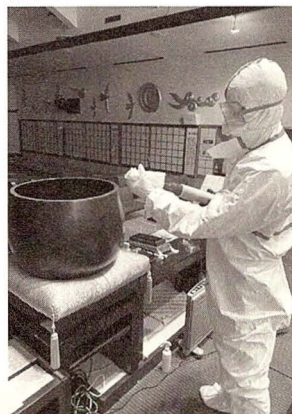
集団感染が起きたのは福岡市博多区にある光薫寺（本門佛立宗）だ。住職は小林信翠さん（49）。光薫寺は、博多駅から徒歩圏内で、北部九州一円に別院を7ヶ所抱え、信者は1000軒以上にも上る。

小林さんが体の不調を訴えたのは1月6日。頭痛と筋肉痛、さらには悪寒と暑さを同時に感じるような状態になった。翌7日、光薫寺に勤務する僧侶Aさん（60代）



ソーシャルディスタンスをとる椅子席

仏具もひとつ一つ丁寧に
除染される

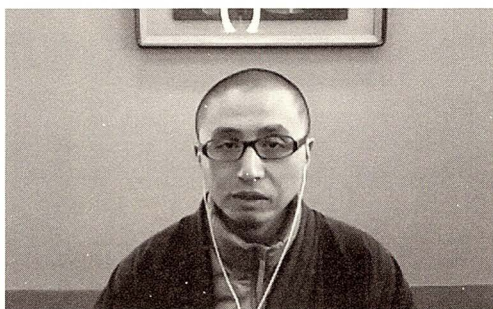


から、PCR検査で陽性になったとの報告を受けた。自身のコロナ感染が疑われる中、8日にPCR検査を受け、陽性の判定が出た。

Aさんと隣同士の席で、お互いにマスクなしで読経をしていたことが原因と考えられた。8日までに光薫寺に勤務する僧侶ら計6人の感染が判明。その後は感染者が出なかったため、19日にはいったん寺を再開した。だがその後、新たに2人（僧侶、信徒）の感染が明らかになり再び、寺は閉鎖に追い込まれた。

小林さんは業者に伽藍内部の除染を依頼するなど対策を講じ、2月3日に寺務を再開した。念のため、信徒にはリモートでの参詣を広く呼びかけている。

各地の多くの寺院では、手指のアルコール消毒の奨励や、ソーシャルディスタンスの確保、堂内の換気など、基本的な感染症対策は講じていることだろう。だが、読経時、導師がマスク着用するかどうかは判断が分かれるところ。とくに葬儀の場面では故人に対し、荘厳な雰囲気の中で読経を届けたい、との思いであえて、マスクを



集団感染した光薫寺（本門佛立宗）の小林信翠住職

外している僧侶は多いはず。

マスクをしていると息が苦しくなったり、読経の声が籠ったりして、儀式に集中できないこともある。私自身も、葬儀ではマスクを外すことが多かったが、小林さんの感染を知って以降は、儀式中であっても常にマスク着用と換気を心がけている。

光薫寺では、ひと月間の閉鎖を余儀なくされた。その間、数件の訃報が入ってきたという。光薫寺の場合は、僧侶が複数所属しているため、コロナに感染していない僧侶が代行を務めることが可能だった。しかし、多くの寺では、住職ひとりだけで寺務をこなす。感染した住職が長期間動けなくなると、檀家の葬儀を執り行えなくなり、混乱することが考えられる。

小林さんは、感染をきっかけに、寺院のBCP策定が必要だという思いを強くしたという。寺院は中小企業と同じようなもの。しかし、緊急事態に備えてBCPを作っているところはごく少数だ。寺院内の感染対策と同時に、BCP策定はとても大事なことだ。

新型コロナウイルス感染発生をHPで公開している



光薫寺HPのQRコード

うかい・しゅうとく。1974年京都市生まれ。大学卒業後、新聞、雑誌記者を経て2018年にジャーナリストとして独立。「仏教界と社会との接点づくり」をテーマに活動が続ける。著書多数。東京農業大学・佛教大学非常勤講師、一般社団法人「良いお寺研究会」代表理事。京都教区正覚寺住職。

寺院のBCPで考えるのは、

①檀信徒への一斉連絡（ブログ、LINE、メーリングリスト）の仕組みの構築

②住職が倒れた時に、代理で法務を執行してくれる寺院（僧侶）の事前選定

③大地震などで地域の寺院が壊滅した場合、応援が可能な隣県の協力寺院の選定

④墓参など、日常の参拝客のための臨時窓口の設置

⑤境内の様子をパソコンなどでリアルに見ることのできるカメラの設置

⑥オンライン法事を可能にするデジタル設備の設置
—— などであろう。

コロナ禍だけでなく、宗派を超えて連携できる仕組みの構築も求められる。本誌1月号における全日本仏教会・戸松義晴理事長との対談でも紹介したが、「地域仏教会の整備」は、有効な手段だと思う。コロナ禍を逆手に取って、宗派を超えた互助システムが広がっていくことを、期待したい。

寺院紀行

山梨・甲府

教安寺

まやま ころ

1958年東京生まれ。大学卒業後出版社に勤務、男性月刊紙の編集部に籍をおく。その後フリーとなり主に寺院関係の編集や執筆に携わっている。

文・撮影

真山剛



復元された七体の木喰像は本堂脇陣に安置されている

青空に向かって聳える石碑。高い。

本堂の底に届く程で、6メートル近い長さに違いない。

この石碑に彫られているのが、甲府五か寺のひとつ、教安寺の由緒だ。

右に「甲陽蓮門最初道場」、中央に「南無阿弥陀佛 浄土宗甲福山安栖院教安寺開創五百年」、そして左に「開山 教蓮社便譽是椿 開基 徳川家康曾祖父 松平信忠 永正元年（一五〇四）五月十六日起立」とある。

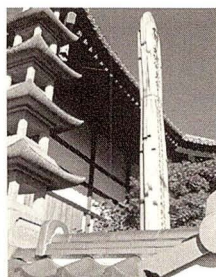
まず右側だが、甲陽とは輝く甲斐の国、蓮門とは浄土宗のこと、そして最初道場と続き、「甲府を中心とした甲州（山梨県）の最初の浄土宗寺院」という意味になる。そして中央と左側で、「永正元年（一五〇四）、徳川家康の曾祖父にあたる松平信忠が是椿上人を開山として教安寺を創建してから五百年が経った」という由緒を伝えている。

この石碑、平成十六年に迎えた開創五百年慶讃法要にあわせ、記念に教安寺第三十三世、高柳了志住職が発願、檀信徒の協力を得て建立した。

そして、この石碑と反対側の本堂左手には、まるで石碑とバランスをとるかのようには阿弥陀如来の石像が立っている。これは「二十一世紀朔月朔日 高柳住職晋山メモリアル」として造立開眼されたものである。その隣には近世以降では県内で四番目に古い、正保四（一六四七）年造立の梵鐘が置かれている。戦争での供出予定だったが、敗戦を迎え供出を免れた梵鐘である。この梵鐘は昭和60（一九八五）年の新梵鐘再鋳に伴い鐘楼堂よりこの鞘堂へ安置された。

さらにその横にはこれまた見たことのない六メートル近い大塔婆が立っている。

「戦前はこのような大塔婆を近隣の寺でも立



檀家さんから寄進される6メートル近い大塔婆

てていたようですが、今は教安寺だけとなりました」

檀家の大工さんが代々寄進し続けてくれている塔婆で、今の当主は大工ではなく設計士となり東京に住んでいる。だが、今でも甲府に住む兄弟に連絡、施餓鬼会に合わせこの塔婆を欠かさず寄進してくれるそうだ。いい話である。

さらに目を左に向けると、扉に葵の紋がついた石造りの御霊廟がある。この御霊廟、教安寺住職の隠居寺となる極楽寺に建てられたものを江戸時代、極楽寺廃寺に伴って本寺である教安寺に移したもので、祀られているのは徳川家康の第八子、仙千代。そしてこの仙千代を養子にもらったのが、甲府城代の平岩親吉。ちかよし

あまり聞きなれない名前だが、この平岩親吉は家康と同年で家康が最も信頼を置いた武

将の一人。家康が嫡男、信康の後見役にして

いる。
さて、この親吉の養子になった仙千代だが、実際に甲府を訪れることはなく、京都の伏見で六歳で夭折した。

親吉はその供養を教安寺七世寂誉上人に依頼、それに応え七回忌まで教安寺で大法要を厳修した。

その七世寂誉に応え親吉は隠居寺として近くに極楽寺を建立、そこに仙千代の御霊廟を建て供養を続けたのである。その後、親吉は仙千代と同腹の弟、家康の第九子となる五郎太を養子に迎えるが、この五郎太は後の尾張徳川家の初代藩主義直となる。

このように教安寺は徳川家康の曾祖父が開基した浄土宗の甲斐国初の寺院、そして家康の嫡男の後見人、第八、九子の養父となった親吉が信頼を寄せた寺ということである。



教安寺の歴代住職の墓

住職がこんな話をしてくれた。

「今でも盆暮れには尾張徳川家から付け届けがあります。また、尾張徳川家の当主が亡くなると、縁^{ゆかり}の寺院ということで葬儀の知らせが届き、私も増上寺と護国寺での尾張徳川家の葬儀に客僧として参列させていただいています。」

逆に教安寺の落慶法要にも尾張徳川家にご臨席いただきました。そのお礼で目白のお屋敷へ伺いましたが、迎え入れられた応接間は、煙草盆から調度品にいたるまで、全て葵の御紋。まるで江戸時代に迷い込んだようでした（笑）

教安寺住職だからこそ経験できた思い出に破顔一笑された。

さて、甲府といえば、ひとりの武将が浮かぶだろう。

甲府駅前の広場に像が立つ武将、そう武田

信玄である。

戦国武将ながら治世にも優れた信玄は天下統一を夢見たものの、無念にも病でこの世を去る。今に伝わる甲府五山は都である京都、鎌倉に倣い信玄が臨済宗寺院で作ったものが、さらに甲府には浄土宗寺院である甲府五か寺もある。

「教安寺は甲府五か寺の中で、唯一開創以来同じ場所にある寺で、旧甲州街道のクランク近くにあり、当時は広大な寺領を誇った寺でした」

高柳住職の説明の通り、なんと芝居小屋を含む広い境内地の教安寺の絵図を見つけた。甲府は小江戸とも呼ばれるほど江戸との往来が頻繁な地で、関東八座の一つ亀屋座があり、五代目市川団十郎や坂東三津五郎など歌舞伎の名優が三季興行に来演し続け、教安寺境内は見物客で大いに賑わいをみせた。



甲府の観光名所となっている武田神社

歌舞伎界を牽引してきたのは成田屋こと市川家だが、初代市川団十郎の祖父の出身地は、実は甲府盆地の西南に位置する市川三郷なのである。

祖父は武田氏の家臣で、この甲府から千葉県
の成田へ向かっている。昨年五月に十三代
目団十郎を襲名披露する予定だった市川海老
蔵も子供時代から十二代目と共に何度もこの
地を訪れ、当時の写真も飾られている。

江戸時代に江戸との行き来が盛んであった
のは、家康が甲府を江戸に次ぐ拠点としたか
らで、関東入府前にも主に富士川沿いを遡り、
家康は七度も甲府を訪れている。そして甲府
入峡にあたっては武田氏の築いてきた伝統に
従って統治するよう、平岩親吉を甲府城代に、
その下代官頭に大久保長安をあてている。

大久保長安は伊奈忠次と共に、家康の命に
よる関東一円の地域開発にあたった重臣で、

長安は屋敷を江戸城下と駿府城下に構え、長
安が管轄する陣屋はこの甲府をはじめ、武蔵
国の八王子と青梅、佐渡の相川、越後の柏崎、
石見の大森など主要な幕府直轄地に置かれて
いた。まさに江戸の基盤を開発管理した人物
である。

そして、この長安は甲府との浅からぬ縁が
ある。長安の父が信玄の猿樂衆として勤士し
ていたのだ。

兄である長男は忠義一筋に生きた戦国武将
だったが、次男の長安は民政にその才を発揮
するタイプだった。家康との縁は家康が甲府
滞在時の仮館を建築し気に入られた説や、風
流な桑木風呂を作り、それが気に入られたか
らとも言われている。

どちらにしろ、家康は長安を地方巧者（地
方支配に長けた役人）として大いに活躍の場
を与え、それに長安も大いに応えたのである。

管絃術の創始者、杉山和一の顕彰碑。
五代將軍徳川綱吉の病を治療し、初
代関東総検校についた



話を甲州街道に移そう。甲州街道は江戸城の半蔵門から諏訪を結び、五街道のひとつだが、その役目のひとつは江戸城に危機が及ぶ時に家康が逃げ延びる為のいわば緊急避難道でもあった。

実際に避難道として使われる事はなかったが、江戸城の外堀からすぐの四谷には城を守るためのクランクが多く残っているが、同じようにクランクが甲府にも残っているのは、そうした緊急時に備える家康の慎重さであり、甲府城を落ち着き場所とした証である。

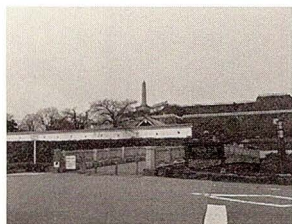
教安寺脇を通るこの旧道のクランクに高柳住職は、

「戦時中、甲府には連隊があったので、空襲で全てを失いました。焼け野原を復興するにあたって、名古屋のように広い道路などの整備をせずにクランクを残しました。残した当初、クランクに非難が集まりましたが、バイ

パスができると遺構をよく残したと逆に評価されています（笑）。

一方、今は舞鶴公園となっている甲府城ですが、線路を敷く時に城を崩して分断してしまいました。甲府城の広大な敷地が残っていれば、天守閣が復元されたりして、それは一大観光名所になったに違いありません。残念ですね」

さて、教安寺で忘れてならないのは、遊行僧木喰上人（もくじく しょうぎん）の彫った最後の木喰仏七体が見つかったことである。日本民芸協会を創立した柳宗悦（やなぎむねよし）が甲府のある民家で無造作に置いてあった木喰仏に気付いたことから、祖父である先々代が知人から確か教安寺にも同じようなものがあると促され、本堂の奥、高い棚の上で埃まみれになっていた木像を下ろし、木喰研究会員が調べたところ、それが歴史に残る木像だったのである。



甲府城跡は舞鶴公園となっている

その経緯は大正十四年二月の『山梨日日新聞』に連載されている。

ちなみに木喰上人は現在の山梨県身延の出身で、廻国行脚、千体を超える木像を彫り祈願し、文化五（一八〇九）年、九十一歳を超えて甲府に戻り、教安寺で最後の七体を彫ったあと消息が途絶えている。

木喰のみはいづくの果か行倒れ

犬かからすの糸じきなるらん

と詠んだ通りの最後を迎えたようだ。

誠に残念ながらこの最後の木喰仏は空襲で焼失してしまった。しかし、写真集などをもとに七体を復元、教安寺本堂の脇陣に祀られている。

「焼失は残念ですが、多くの資料のおかげで実物に添った像を、後世の人々に木喰上人の

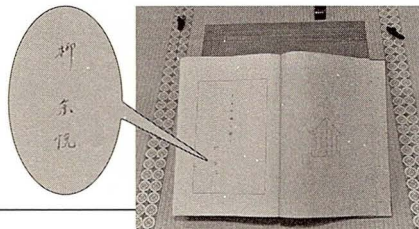
心をのこせたらとの思いから七体すべて復元しました」

冒頭の石碑、最後の木喰仏と教安寺の歴史を形にしてきた高柳住職だが、自らが教安寺の歴史に新たな一頁を加えることになる。大本山増上寺での御忌法要の御代理導師を務めるのは令和三年四月七日、浄土宗宗祖の法然上人が生まれた日である。

「増上寺の御忌は都度随喜させていただいています。その度に念仏のありがたさ、阿弥陀様に生かされ生きていることを実感してきました。

ですが、今度はお代理導師として阿弥陀如来の御前で、しかも宗祖の降誕会ですから、きつとありがたさが一層湧き上がってくるに違いありません。

コロナ禍で当初の予定より一年延期となりましたが、世の中いつ何が起こるかかわらな



木喰五行研究会発行の柳宗悦著
「上人の霊に献ぐ」

いことに改めて気付かせていただきました。これもまた巡り合わせ、お導きということでしょう」

高柳住職は現在山梨教区の教区長を勤めている。教区長とは山梨教区91か寺の浄土宗寺院をまとめる行政機関となる教務所のトップで、その教務所は教区長、教化団長、組長、参事、書記といった役職者で構成されている。高柳住職はこの教務所並びに教区議会に四十年以上携わっているという。

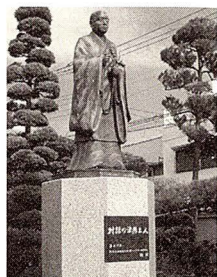
父である先代が教区長を務めた十二年間は書記を務め、その後参事を十三年、続いて教区会議員を十六年（うち議長八年）、そして教区長が六年目となり、都合、四十七年目となる。

「任期が一日も途切れることもなく教務所、教区議会でお手伝いできたのも御住職方、ご寺庭の皆様のご指導ご協力のお陰です。

細く長く続けさせていただきましたが、最近は回路がうまく繋がらず、ご迷惑の連続、化石同然です（笑）」

地元山梨教区に尽くしてきた高柳住職導師の御忌には多くの随喜寺院、檀信徒が参拝する。山梨教区の八代組、山梨組、都留組が各一台、甲府組が二台、教安寺で二・三台、合わせて大型バス八台。山梨教区あげての大イベントとなる。

残念ながらコロナ禍で規模が縮小されることとなったものの、増上寺大殿にたたずむ大きな阿弥陀如来、その眼差しを一身に受けるお代理導師、その大役、高柳住職にとって法然上人への報恩感謝の瞬間となることに変わりはない。

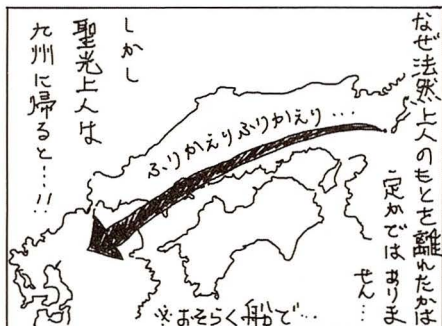
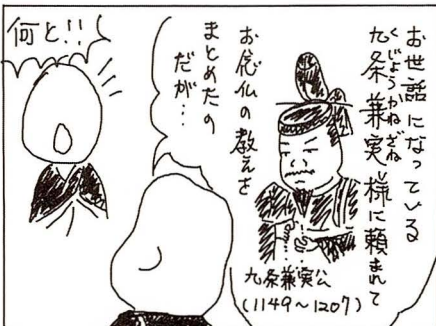
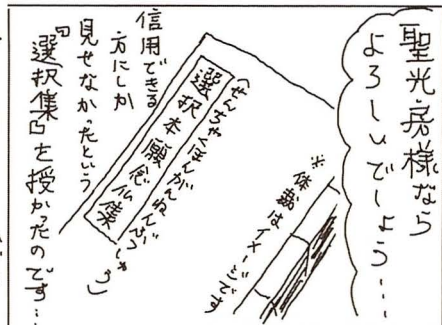
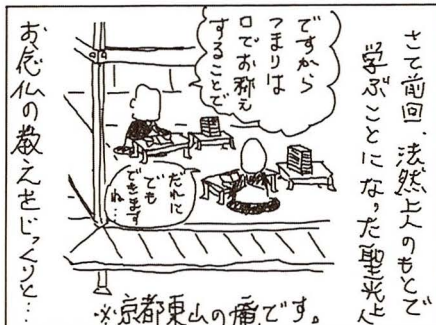


800年遠忌記念で造立された「対話の法然上人像」は、京都の浄土宗務庁のエントランスホールの像と同型で山田良定先生作だ

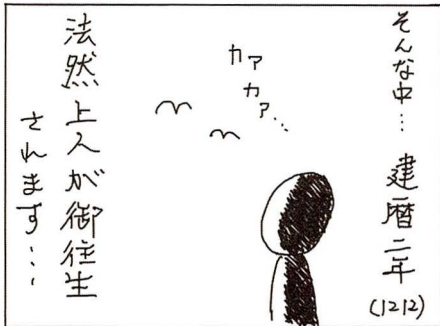
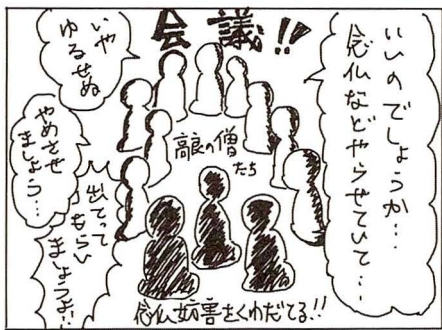
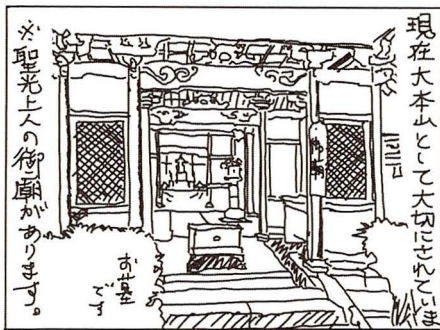
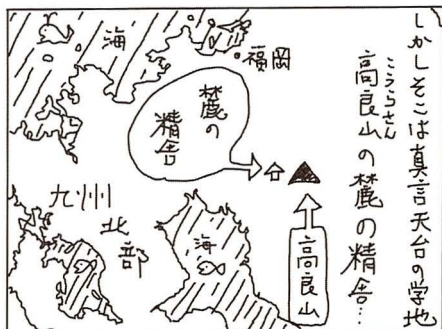
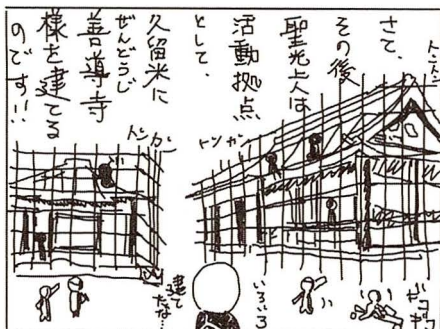
浄土宗のお祖師様

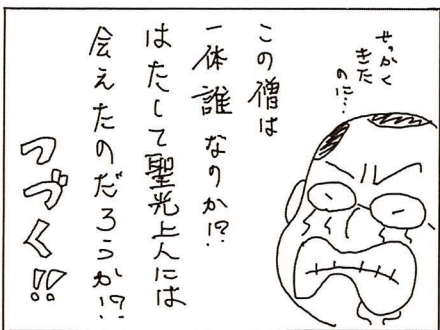
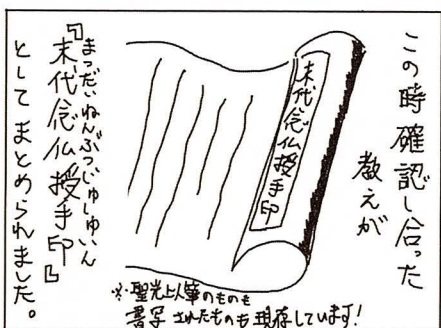
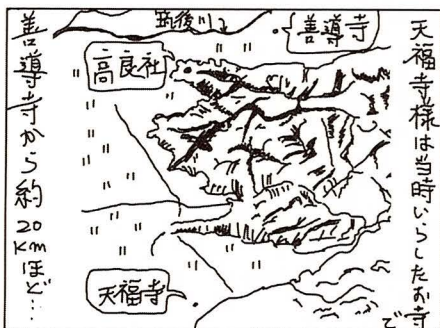
その1

二祖聖光さん
竹筈参話
くんじまん



⇒「通称」選択集付属といわれよう。





インド渡航歴40回超!

佐藤良純の No. 10

インド・釈尊あれこれ紀行

ヴァイシャリ



アショーカ王が建立した王柱で、奇跡的に完全な形で残っているのはヴァイシャリのこの柱だけだ

インド渡航歴40回超！

佐藤良純のインド・釈尊あれこれ紀行 No.10



パータリプトラに残る列柱30本の跡。
現在は土中でみることができない。
写真は50年前に著者が撮ったもの

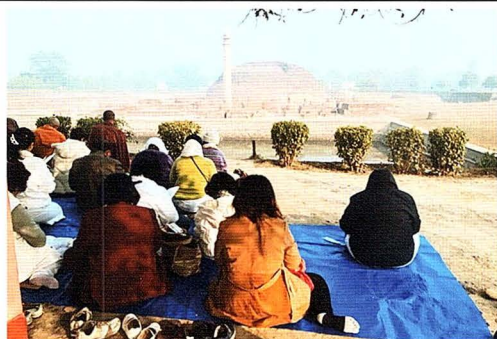


池川から全景を望む。この遺跡の周
りには建物はなく、林と野原が広
がっている（写真左上下）

ヴァイシヤリはマガダ国の首都、ガンジス河南岸のパータリプトラを北に渡って車で2時間のところにあります。そのパータリプトラには宮殿の列柱30本が残っていますが、ガンジス河より低い土地にあるためほとんど水没していますので、現在は保護のため土に埋戻され、見ることはできません。

その宮殿そばには病院の僧坊がありました。インドの医学は古くから発達しており、チャラカ サンヒター（内科）、スシュルタ サンヒター（外科）の医学書がありました。外科手術の用具の残骸も残されています。心療内科もあり、医師の心得として倫理学、論理学を学ぶことが必修でした。内科には、ホモエパシーと呼ばれる療法がありました。これは例えば熱の高い患者にはさらに熱の上がる薬を服用させ、熱を下げる療法です。

釈尊と縁の深いヴァイシヤリですが、この



地元インドの仏教徒にとって聖地となるヴァイシャリ。
遠く王柱を仰いでの祈り

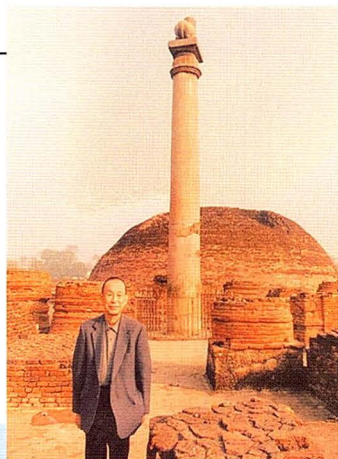


釈尊の生涯を描いた絵伝木彫り。
この地で猿が釈尊に蜜を捧げた、
といわれている

ヴァイシャリに住んでいたリツチャビの人々は共和制の政治体制を整えており、三種の投票方法がありました。一つは公開投票、つまり全ての人々が判る投票、二つめは部分的公開投票、つまり知らせる良い人には公開する方法、三つめは誰にも分らない秘密投票で、この形をとる間にはリツチャビの人々は絶体滅びないと仏典にも記されています。

この地で行われた第二回の仏典結集では、経と律（教団の規則）の再確認を行いました。釈尊が亡くなり百年が経ち、規則を勝手に解釈する者、例えば太陽が正午を過ぎても食事をしてよいなど、が多くなったためです。

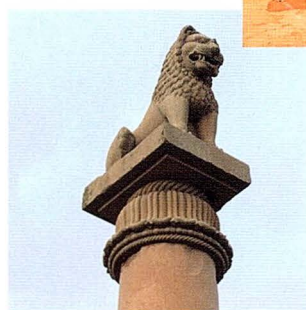
ヴァイシャリといえば、完全な形のライオンを頭柱に持つアショーカ王建立の塔が有名です。また、猿が釈尊に蜜を捧げた場所もあります。そして、この村に住んだ遊女アンバパーリーのマンゴー園の跡もあります。当時



佐藤良純

大正大学名誉教授

さとう・りょうじゅん 昭和7年東京生まれ。大正大学同大学院、インドデリー大学院に学ぶ。昭和34年より大正大学で教鞭をとり、教授、学科長を経て、平成14年退職。大正大学名誉教授となる。インドへの初渡航は昭和38年、以来インドへ訪れること、40有余回。著書に『ブッダガヤ大菩提寺』、『釈尊の生涯』など多数。



王柱の上にはライオンが彫られている

の遊女は最上の教育を受けていて、最も高い知識、識見がありました。

そして、ここには維摩居士という在家の仏教知識人も住んでいて、その家は訪れる人々の人数によって広さが変化したと伝えられます。教えは大乗仏教、空思想でした。その場所には維摩の方丈と呼ばれ維摩居士の懐の大きさを示しています。

ヴァイシャリには千人の子供を持つ鹿母の寄付した鹿母講堂もありました。そして、ヴァイシャリの北にインドで一番大きいケサリヤのストウーパがあります。北へ向かう釈尊を慕ってきた、リツチャビの人々をあきらめさせるために、大きな川を造られたとされる所です。何層もの階段状で一番下の基壇は百メートルもあり、各層に多くの仏像が祀られています。塔の前の沼地には僧坊の跡が未発掘の状態です。

第三回

東海道(1) 川を渡る旅

森 清鑑

江戸 日本の 街道 探訪

家康の
全国道路網
造り

海縁を行く東海道

京都御所と江戸幕府を結ぶ東海道は、日本の最重要幹線である。このルートは古く奈良時代から存在し、江戸を通り越して香取海、霞ヶ浦、房総まで及ぶ街道の呼称であった。家康は東海道の総合的な道路整備を推進し、斬新的な宿駅、駅通制度を取り入れ、東海道全体を通信ルート化する。こうして東海道は日本の街道のモデルとなった。

いうまでもなく、東海道は日本橋を出発点とし、京都三条大橋までの幹線街道であるが、同時に大阪、中国地方、紀伊、四国、九州のいわゆる西国からすれば、京都は江戸への玄関口でもある。それだからこそ参勤交代で150以上もの大名が利用する幹線道路であった。

五街道の出発点は日本橋

五街道の出発点は全てお江戸日本橋である。今

日でも「東京まで何km」の表示は日本橋までを指す。家康は江戸に入府すると海に突き出た江戸前島を軸に広大な埋め立てを開始。江戸という大都市創造は海の埋め立ての歴史である。そして海に沿って新たな幹線道路を新設する。それが東海道である。東海道は日本橋を出発した後、埋め立て地の海縁を、曲線を描いて最初の宿場、品川に向かって行く。最初から潮の香を感じながら、のどかで開放的な海の景色を垣間見ることになる。

増上寺の大門を通る。三解脱門二階の欄干からは眼前に海が望める。帆立船の白い帆が眩しく光る。札の辻を通り、高輪の大本戸を潜れば江戸外。そして京都へと向かうのである。道の両側は松並木。青い海を垣間見る美しい海沿いの道である。やがて右手に泉岳寺の門が見える。そして前方に八ッ山と御殿山の姿が目に入る。この御殿山の麓、海沿いに東海道が敷かれ、品川宿が完成する。多数の旅籠が両側に並び、やがて左側に本陣、脇本

陣がでんと構え、旅籠の二階からは眼下に江戸湾の風情が眺められる。この風情からは正に江戸の四宿の貫禄が感じられる。

海沿いの心地よく整備された街道

雪且が江戸名所図会に描いた鈴ヶ森の図は、品川から鈴ヶ森を抜け、大森に向かう東海道の海縁曲線を描いており、この街道の姿を鳥瞰で見事にとらえている。

江戸に向かう大名行列。中央、鈴ヶ森刑場を通過すると品川の家並みが見えてくる。

このように東海道は、大雑把に言って、江戸湾、相模湾、遠州灘、伊勢湾沿いに行く街道である。その街道の松並木の合間から茫洋とした青い海を覗き続けられる。

そして前半の主人公は日本の美を代表する富士の山の景色である。東海道の前半部分からは、どこからでも絵になる富士が拝める。

街道の道は土砂を適度に固め、整備された路面で、心地よい感触を足に与える。清潔である。幕末に訪れた多くの外国人が一樣にこの美しい街道に感嘆している。

家康が初めて江戸に入府した時、海沿いの東海道は無かった。当時の江戸近郊東海道はもつと内陸を通っていた。今の中原街道である。埋め立て地の海縁に新しい東海道が敷設され、中原街道は以後、脇往還道となり、農作物、肥料運搬の生活道路として人々に愛されることになる。

宿場の間隔と江戸人が歩く時間

日本橋を出発し、京都三条大橋に着くまで東海道には53の駅通、宿場が存在している。宿場間の距離を一覧すると…

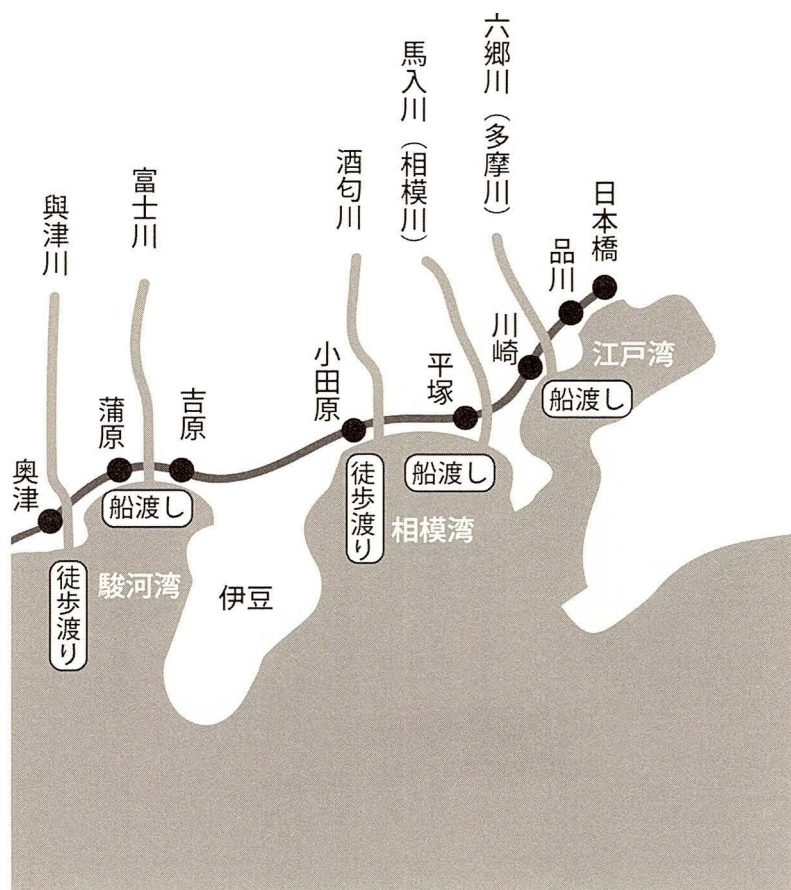
日本橋 (11.6 km) 〈東京都〉

品川宿 (9.8)

川崎宿 (9.5) 〈神奈川県〉

神奈川宿	程ヶ谷宿	戸塚宿	藤沢宿	平塚宿	大磯宿	小田原宿	箱根宿	三島宿	沼津宿	原宿	吉原宿	蒲原宿	由比宿	興津宿	江尻宿	府中宿	丸子宿
(4.4)	(9.4)	(7.7)	(12.7)	(3.3)	(15.8)	(15.5)	(14.4)	(6.2)	(6.1)	(9.0)	(11.1)	(5.4)	(10)	(4.6)	(11.4)	(5.3)	(8.5)

《静岡県》

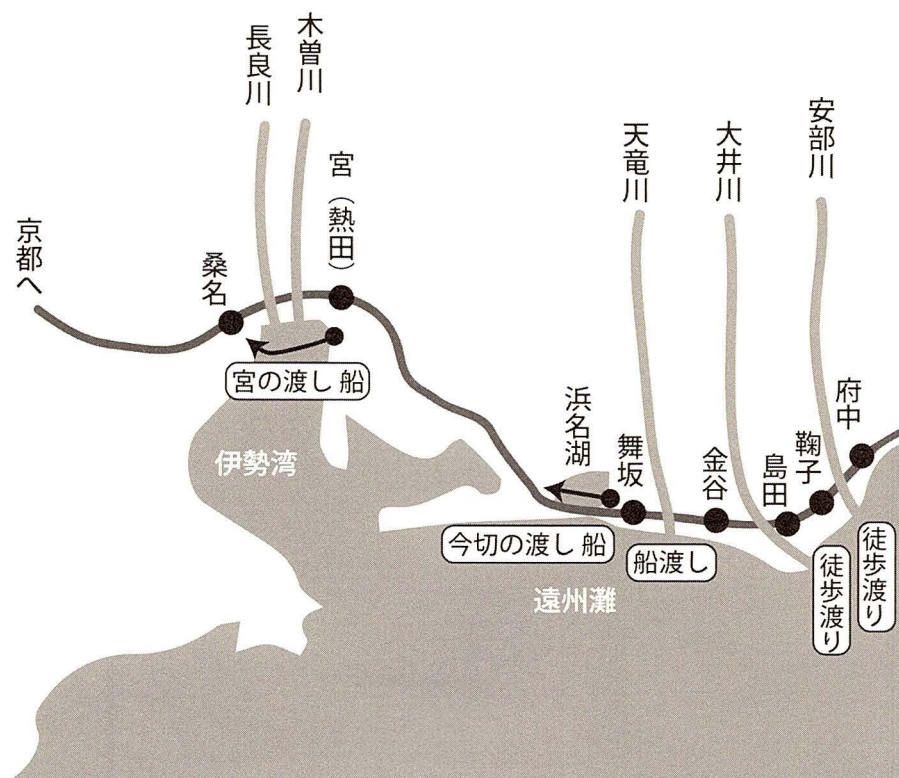


岡崎宿 藤川宿 赤坂宿 御油宿 吉田宿 二川宿 白須賀宿 新居宿 舞坂宿 浜松宿 見附宿 袋井宿 掛川宿 日坂宿 金谷宿 島田宿 藤枝宿 岡部宿

11.8 10.7 9.9 2.0 11.1 7.7 5.9 6.8 4.6 11.1 14.5 6.5 8.3 8.6 6.5 4.4 8.1 7.8

〈愛知県〉

東海道の川を渡る



池鯉鮒宿 (11.7)

鳴海宿 (6.6)

宮宿 (25.0)

桑名宿 (12.6) 〈三重県〉

四日市宿 (12.2)

石薬師宿 (3.3)

庄野宿 (8.5)

亀山宿 (5.1)

関宿 (5.3)

坂下宿 (10.0)

土山宿 (11.8) 〈滋賀県〉

水口宿 (10.8)

石部宿 (10.5)

草津宿 (14.0)

大津宿 (9.8)

三条大橋 (京都府)

となる。全行程約496 km。

江戸の旅人の一日の歩行距離は平均男で10里

(39.27 km)、女・老人で8里(31.416 km)

と云われている。宿場間の距離は均一ではない。天候など何の支障もない場合で、通常の男の旅人は江戸—京都間を13泊14日で歩いたという。これで計算すると、日本橋を七つ立ち(午前4時)して、最初の宿場は戸塚あたり、ここで一泊して次の宿場は小田原ということになる。宿場の決定は旅人の目的次第ということになる。

東海道の難所——川渡り

ところが他の街道にはない旅の難所が東海道にある。それは、海に注ぐ大河がいくつも待ち受けていることである。山々から流れ下る川が大河となつて海に注いでいる。南アルプスに端を発する大井川、中央アルプスから流れる木曽川など。とにかく多くの川を渡らねばならない。

軍事戦略上、架橋は基本的に禁止されている。となれば、「舟渡し」か「徒歩^{かち}わたり」になる。

『浄土』揭示板

和歌

人の世の道にいたわ勞れしたびひとよ

きたりてすく掬へきよき吉水

(掬水譚出發記念會の夜)

佐藤春夫
詩人・作家

『法然鑽仰』
より

昭和11年3月刊行

ところが川は、往々にして水嵩みずかさを増す。すると川留めの事態になる。水は簡単には引かない。しばしば2〜3日待ちが発生する。そこで諸々の出費が発生する。参勤交代の大名行列の場合だと巨額の費用が追加される。

すばらしい景観との引き替えともいべく東海道特有の難事なのである。だが、絵師にとってはこのスリリングな川渡りこそ、絵になる題材。いずれの絵師も川渡りを描きまくっている。これを見ると、江戸時代の人々は、川渡りの苦労もなんのその、大いに楽しんでいるかのようである。

渡る川と渡り方

〔多摩川〕品川宿を出て、川崎宿近くに六郷川（多摩川）が流れている。江戸湾に流れ込む多摩川は水量も豊富である。ここでは舟渡し。兩岸に舟場が設置されている。

〔相模川〕次いで藤沢宿から歩いて平塚宿に近づくと大きな川幅の相模川が相模湾に流れ込んでいく。この川の海の近くは、馬入り川と呼ばれていた（頼朝の馬が川にはまった故事から）。水量の多い広い川である。これも舟渡。

〔酒匂川〕そして大磯宿を出て、小田原宿近くに

酒匂川がある。今日もなお鮎釣りで有名である。ここは「徒歩渡り」である。

〔富士川〕 今度は吉原宿を出て蒲原宿に近づくと富士川が駿河湾に流れ込んでいる。ここは舟渡。

〔興津川〕 次は興津（興津）宿。宿場の入り口に流れる興津川。ここは徒歩渡り。

〔安倍川〕 そして府中宿と丸子宿の間、滔々と流れる安倍川。源平合戦、安倍川の戦いで有名なところ。広い川原には州がある。実はこの川は、家康の居城、駿府城の外堀のようなもの。川岸から城下町が続き、駿府城に達する。当然、橋はない。徒歩渡り。

〔大井川〕 島田宿から金谷宿の間が最大難所の大井川。東海道の川渡りを代表する処である。

〔天竜川〕 そして見附宿の外れが天竜川で、ここは舟渡。

〔浜名湖〕 続いては舞坂宿から浜名湖を渡る「今切りの渡し」。ここは舟渡である。

〔伊勢湾岸の船旅―宮の渡し〕 最後の難所が宮宿（熱田神宮）から伊勢湾海岸沿いに海を渡って桑名宿まで行く「宮の渡し（舟渡）」である。これは木曾川、長良川という二つの大河を避けるために考案された、海の渡しである。（つづく）

もり せいかん
1941年東京生まれ。大学卒業後ドイツ系
商社に入社。その後、海外情報、広告・マー
ケティング調査・分析、インフォメーション
オンライン・デマンドサーブिस事業に携わる。廃棄
物関連調査 Mori & Associates 主催。

阿満利磨 (あま としまろ)

(明治大学名誉教授)

なぜ『往生要集入門』 を書いたのか

私たちは、人生を長くても百年に限定して、死ねば「無」になると決めてかかっている。だが、私たちの人生で生じる様々な問題、苦しみ、矛盾は、百年の間で、どれほど解決するのであろうか。また、死ねば「無」になるといっても、誰もそれを見てきたわけではない。不安は増す一方なのではないか。

源信の魅力は、このような人生の不安、不可解に対して、「前世」や「後世」といった長大な時間軸を採用し、また、人間界のほかに「地獄」・「餓鬼」・「畜生」といった世界を想定して立ち向かう点にある。

こつこつえば、いまさら「前世」や「地獄」ではあるまい、という反論

みんなの 境内

もあろう。だが、それは現代人の不遜でしかない。人は〈意味〉に生きているのであり、その〈意味〉はいつても科学的である必要はない。道理が通っていて、納得できるかどうか、

『往生要集入門』筑摩選書 阿満利磨

四六版 286頁 1660円(税別)



がポイントなのである。

たとえば、源信は同じ仏教の話を聞いても、すぐわかる人と、なかなか分からず、結局仏教から遠ざかる人がいるのはなぜか、という問題を出してつぎのようにつづけている。分かる人はすでに過去世において、幾たびも人間として生まれてきており、そこで仏縁があった人なのであり、分からない人は、今生ではじめて仏教に出遇ったばかりの人なのだ、と。このように、源信は、常識とは異なる視点にあえて立つことにより、私たちの当面する問題の生まれてくる道筋を明らかにして、問題の客観化をはかろうとしているのである。問題に振り回されるのではなく、問題を客観的に見る智慧が、この書物には込められている。それがこの書の魅力なのである。

浄土宗の青年僧侶に伝えたい

ぶつぶつ放談

他宗派を知ろう「天台宗」②

天台宗、2回目は千日回峰行について伺う。
この千日回峰行は実は比叡山にある一寺院の
行で、「歩く行」ではなく「祈る行」だそう。
今回も色々知らないことを聞かせてもらえた。

(聞き手・村田洋一 編集・服部祐彦)

◆登場者◆

坂本観泰

さかもと・かんたい



1964年 東京都世田谷区生まれ。知行院住職。学習院大学法学部卒業後、本山交衆(三年籠山)に入行、平成二年延暦寺一山檀那院(非法人)住職拝命。現在、天台宗東京教区宗務副所長。



木内堯大

きうち・ぎょうだい



1974年 東京都墨田区生まれ。如意輪寺住職。早稲田大学第一文学部哲学科卒業。大正大学大学院修了。博士(仏教学)。大正大学非常勤講師を経て、大正大学仏教学部特任准教授。天台宗総合研究センター研究員。

京戸慈仁

きょうど・じにん



1969年 東京都葛飾区生まれ。西光寺住職。青山学院初等部へ入学後、毎日礼拝堂で聖書を読み讃美歌を歌い、牧師の話を聞く。同大学文学部史学科卒業後、都会を離れ比叡山麓叡山学院へ入学。現在天台宗東京教区教務主任。

◆施餓鬼、十夜などの法要について

聞き手（以下——） 浄土宗では施餓鬼法要や十夜法要などの大きな法要では部内寺院が行き来して勤めることが多いのですが、こうした交流はありますでしょうか？

京戸 天台宗でも施餓鬼を勤めますので同じように部内寺院で出仕しあって勤めています。少なくとも法類は呼び合いますね。

木内 また、天台宗にも十夜法要を勤める寺院がいくつもありますよ。

——えっ、そうなのですか！ 十夜法要を始めた京都の真如堂（天台宗）一か寺で勤めていて、基本的には十夜法要は浄土宗だけで行われる行事だと思っていました。

浄土宗では宗祖法然上人の年忌法要である御忌など、特別な大法要がありますが、天台宗ではどのような法要がありますか？

木内 いくつかありますが、比叡山で開かれる法華大会広学^{リョウガク}堅義という法要が一番大々的に行われます。「五年一会」といわれますが、実際は4年に一度6日間にわたって開かれる大法要です。堅義は「試験」を意味し、天台宗の僧侶として幅広くその教えを学べているか、法華経の真理を究めて正當な義を立てることができているのかを問答形式で行う「論議法要」となります。

中日には大行道といって全国から集まった僧侶が大講堂の周りを行道するほか、10歳ほどの得度間もない小僧さんが昔ながらの形式で天台宗の教えや比叡山の歴史を天皇使に披露する「稚児論議」なども行われとても盛大に営まれます。その他はお祖師の御遠忌法要が各教区で営まれています。

——法華大会広学堅義は大きそうですね。

京戸 天台宗では仏の教えを顕教と密教に分

類しますので、法要儀礼も様々な方式に分類されます。顕教、密教のどちらを中心に勤めるのか、また法華懺法せんぼう（法華經中心の法要）と例時作法（阿弥陀經中心の法要）という方式にも分けられます。ですから決まった次第があるわけではなく、例えば通夜の時には阿弥陀經を中心にしたので、葬儀では法華經をお唱えするという方もいます。ただ、関西では密教法要（光明供）が多いですね。

——浄土宗では通夜、葬儀などの差定はおおよそ共通しているので、決まった差定がない、というのは驚きます。各寺院、各僧侶、各法要で差定が異なる、ということですか？

京戸 そうですね、多数のお坊さんで一緒に勤める際には事前に練習しますけれど。

坂本 天台の法要の特徴は導師がすべて行うことです。つまり叡山で常に中心におられる座主猊下が一番忙しい。様々な作法のほか、

句頭を唱える「調声」は同音まで一人で唱えなければなりません。法式、法則（法要の趣旨を述べる）まですべて導師一人でこなします。

——浄土宗では維那という役割の僧侶が先導するので、大きく違いますね。ただし、御忌法要では総本山知恩院や京都の本山では導師がすべて行いますので、天台宗の法式を引き継いでいるのかもしれませんが。

ちなみに日頃皆さんがお唱えする日常勤行はどういったものですか？

京戸 天台僧を志すときに一番最初に渡される『台宗課誦』というものがあります。そこには一式、二式、三式と呼ばれる勤行式が書かれていて、それらをお唱えすると、それぞれ30分くらいになります。ただこれも決まったものではなく、開經偈の後に般若心經や自我偈（法華經・如来寿量品）をお唱えしてそ

の後に真言を唱える方も多いように思います。比叡山では神力品（法華経・如来神力品）をすべてお唱えしたり、護摩を修すこともあるので、30分以上の勤行をお勤めしています。

坂本 決まりがないので、日頃はあまり読まない経を読んでみたり、供養法を変えてみたりもします。様々な経に触れることで発見もありますから。こうした自由さが顕・密の両方を持つ天台宗ならではの面白さなのだと思いますね。

——なるほど、そうですね。鎌倉仏教の諸宗派は天台宗から派生している訳ですから、色々な教えや法式がすべて揃っていて、それを自由に使い回せる。

坂本 加行では毎日勤行式が違いますから。すべてを習得しなければならないわけです。

——えっ、それは大変ですね。

京戸 これくらいのも（5センチほどの厚さ）

経本をすべて暗記するのですよ。陀羅尼などは暗記してないと加行の進行が遅れてしまいますから、行院生全員が必死で覚える。

——優秀な方しか、天台僧になれない気がしてきました……。『朝題目、夕念仏』とよく聞きますが、実際にはどうなのでしょう？

木内 基本的な法要の考え方として取り入れています。朝のお勤めでは法華経を唱えて懺悔して、夕方は太陽が沈むときに極楽浄土に想いをはせる。式次第はいろんなことができますので本当に様々で、ここに坐禅（止観）も入れる方もいますが、朝に懺悔、夕方に極楽往生を願うという考え方は皆さん持っていると思います。

◆千日回峰行について

——天台宗といえば千日回峰行という一般にもよく知られる行があります。これはどうい

う資格の方が受けられ、どういったことをされるのでしょうか。

坂本 千日回峰行は叡山が信長に焼き討ちされてから50名、戦後では20名が満行されています。それ以前もいらつしやったと思いますが、焼き討ちによってその資料は残っていません。そして今のような形式になったのは焼き討ち以降になります。

——信長の焼き討ちは本当に大きな痛手だったのですね。昔のことが分からなくなった。

坂本 回峰行の流れはもともと三派あります。西塔の正教坊流、横川の飯室谷に伝わる飯室回峰（恵光坊流）、東塔の無動寺を中心とした玉泉坊流と呼ばれる三派です。そして、現在も行われているのが、飯室回峰と玉泉坊流になります。

行に入るには年に1回開かれる先達会議（無動寺谷一山寺院住職、大行満などで構成）で、

まずは初百日の行を受けられる資格が与えられます。ひと昔前には無動寺の小僧さんが受けることが多かったのですが、いまでは交通の便もよくなりましたので、各地方に住む僧侶も受けられるようになりました。

また、延暦寺一山の徒弟育成のカリキュラムで本山交衆きゆうしゆうというものがあり、交衆生は三年間籠山修行中の三年目に回峰初百日を修行させて頂けることになっています。

私もその一人でした。

——実際に経験されたのですね。何人ぐらいが入るのですか。

坂本 年に2、3名が行に入りますので、現在存命の方でいうと100名くらいでしょうか。全体のパーセンテージからいうとかなり少ないといえます。始めれば止めることは許されず、その時は死を意味しますから、そのくらいの覚悟がないと受けられないのです。

初百日行は3月28日から7月5日に行いますが、これが終わると最後に夏安居に入り7日間山籠もりをします。これは回峰行の祖と謳われる相応和尚（831～918）の行にならったもので、これようやく満行となります。そして、ここようやく千日回峰行のスタートラインに立てたということです。

——スタートラインですね。

坂本 さらにこの夏安居に毎年入行する回数によって新達（1～7回）、先達（8～14回）、大先達（15～24回）、大大先達（25回以上）となります。このなかで自ずと修行仲間や師僧などから「次の千日回峰行は彼が相応しいのではないか」と名前が挙がってくるのです。近年では大阿闍梨さんのお弟子が指名されるケースが多くなっています。

——回峰行は天台宗という宗派が主催し、修行者を決定しているものだと思います

が、違うのですね。

坂本 そうなのです、あくまで無動寺谷が中心となっていて行っています。ですから回峰行を何度満行しても僧階は上がりません。

——えっ！ 本当に修行なのですね。

坂本 昔から無動寺は全国から小僧さんが集まるお寺でした。著名であった叡南祖賢（1903～71）大阿闍梨のもとには大勢のお弟子が集まり、多くの僧を育てました。今でも一般の方がイメージするような本當の小僧生活を送っているのは無動寺だけではないでしょうかね。

今も車が入れませんので、学校を終えた小僧さんたちは食料やガスボンベなどを抱えて山に帰っていきますし、座主猊下がお見えの時には籠を担いでお迎えすることもあります。

——そこまでの小僧生活を送る寺院は浄土宗ではほばないかもしれません。それでは千日

回峰は実際どのように行われるのですか？

坂本 そこから（スタートラインに立ってから）7年間の修行が始まります。無動寺で勤行のあと、深夜2時に出発。真言を唱えながら東塔、西塔、横川、日吉大社と260カ所で礼拝しながら、約30kmを平均6時間で巡拝します。これを1年から3年目は年に100日、4年から5年目は年に200日続け、計700日となったところでよくテレビなどでも放映される「堂入り」となります。ここでは9日間の断食・断水・不眠・不臥になりますので、600日を超えたところから五穀断ちをしていき、徐々に体を合わせていくようになります。

——はい。

坂本 堂入りは何のためかというと、無動寺の明王堂で不動明王と一対一になり真言を唱え続けることで即身成仏し、不動明王と一心

同体であり、一体不二であると感得するためです。堂入り前の700日が自行にあたり、堂入りを機に行者は衆生救済の利他行に入ります。

堂入りが終わると、これまでの行程に京都の赤山禅院への往復が加わり、1日約60kmの行程を100日続けます。7年目には200日行い、はじめの100日は全行程84kmにおよぶ京都大回りで、後半100日は比叡山中30kmの行程に戻っていきます。

——京都に街中をいく行者をテレビで何回か見えています。

坂本 こう説明すると、回峰行は「歩く行」と思われがちですが、実は拝む箇所が260カ所あるので、そこを移動するから結果的に歩く行のようにみえます。ですが、歩くのは拝むための手段であって目的ではないのです。テレビなどでは、違うイメージとして映って

いると思いますね。

——確かに。最後はどうなるのでしょうか。

坂本 千日目で満行と思われるでしょうが、実は少し前で終わらせました。「これですべてが終わった」とならないために、わざと未完にするのです。これで大行満大阿闍梨となり、いわゆる「阿闍梨さん」と呼ばれるようになります。ちなみに阿闍梨餅というお菓子ご存じですか？

——ええ、京都土産の人気のお菓子で、すぐ売り切れますよね。

坂本 その外箱や包装紙には阿闍梨さんが描かれていて、腰のあたりをうしろから刺股のような棒で民衆の一人に押されているのですが、これは疲れている僧を助けているのではなくて、生身の仏さんだからお支えしているという意味なのです。自行を終え、人々を救い歩くという阿闍梨としての役割があらわ

されているのです。

——実際、坂本さんのように回峰行を経験された方は、同じ天台僧としてどう映られているのですか？

京戸 東京教区内でも入行者は本当に少ないですし、同世代でも1人か2人いるかです。で、やはり一目も二目もおく存在です。話し合いの場でも満行された方が「こうだぞ」と言えば「はい！」となります（笑）。

木内 確かにそういうところありますね（笑）。やはり修行で得られる知識は圧倒的に違うものですから。

僧侶には実践と知識のどちらも必要ですが、坂本さんは実践のことは何でも教えてください。それから何かと頼っています。

坂本 そう、色々聞かれると思って、日々一生懸命勉強してますよ（笑）

（つづく）



微

風

吹

動

おじいさんの道くさ

僕が死んだらハイになって

笑う花を咲かせましょう

そのとき君が今のままなら

きつと僕だと気付いてくれるでしょう

振り返れば地図も持たぬまま

幾つかの時代を横目に歩いた

思惑違いも多々あれど

それが人生と言うものなのでしょう

遠まわり遠まわりするのさ

どんな道草にも花は咲く

導 量 藤 工

(モアリズム「笑う花」より)

「おじいさん、アメリカに行っただって!!」。風呂上がりの妻が、3歳の息子に元気いっぱいと呼びかけられて、戸惑い顔をしている。

時を戻そう。30分ほど前のことだ。息子が部屋の掛け時計を指さしながら「時計のおじいさんはどこに行ったの?」と繰り返して聞いてくる。妖精でも見えてくるのだろうかと思っていると、どうやら童謡「大きな古時計」に出てくるおじいさんのことらしい。うーむ。後半の歌詞に「てんごくへのぼるおじいさん」とあるものの、はたしてどう伝えるべきか、なかなかの難問だ。

インターネット上に何かヒントが転がっていないか調べてみたところ、もとは英語の歌詞で、19世紀後半に活躍したアメリカの作曲家が、イギリスのホテルを経営していた兄弟と古時計のエピソードを聞いて感銘を受け、その物語を歌詞にしたためた大ヒットしたものだという。

「なるほどアメリカの童謡なのか」と思わず口にする、息子が「アメリカ…」と神妙な顔つきでつぶやいていた。気づけばいつの間にか質問の嵐もおさまっている。そして、冒頭の場面に至ったのだ。

事情の分からない妻に経緯を説明すると、瞬く間に破顔一笑。息子の中ではあの難問が「アメリカに行っただおじいさん」で解決されたわけだ。世界地図どころか日本地図も頭に入っていないのに、「アメリカ」という言葉に妙な納得感を抱くというのも不思議なものである。ほとほと子どもの空想力には驚かさ

くどう りょうどう 1980年青森県今別町生まれ。青森教区本覚寺副住職。博士(仏教学)。浄土宗総合研究所研究員、大正大学非常勤講師、淑徳大学兼任講師。専門は中国浄土教、著書に『迦才『浄土論』と中国浄土教—凡夫化土往生説の思想形成』(法蔵館、2013年)など。

れる。一方、内心ではそろそろ「この後どうなってしまうの?」というテーマの絵本を買ってあげないと、という想いが募り始めていた。

最近、水月昭道『子どもの道くさ』というブックレットを手にした。「道くさ」という言葉はどこか甘美な響きで、子ども時代のノスタルジックな気分を醸成し、黄色信号が「走れ」の合図だったあの頃を懐かしく思い出させてくれる。ところが、最近はその遊び場が少なくなり、指定通学路とよばれる下校ルートが「安全確保」を最優先に決められてしまい、道くさの機会が激減しているという。社会的にも、道くさという言葉は単なる「遠まわり」で無用なものというレッテルが貼られており、著者の言葉を借りれば、まさに「道くさの貧困化」という状況なのである。

それでも、というべきか、子どもたちは親の監視や校則といった幾多の難関をかいぐぐり、見事なまでのフロンティアスピリッツを発揮して、道くさというミッションを痛快に成し遂げていた。子どもの世界観からみれば、選ばれし道くさルートには彼らなりの理由があつて、大人には見えない宝物のような豊かな情報がいっぱいつまっているのだ。

子どもたちの下校ルートを調査してみると、おおまかに①反応型、②注目型、③発見型、④無目的型、⑤立ち話型、⑥規則型、⑦暇つぶし型、⑧交流型、⑨目的型という九類型があつたという。確かにどれもこれも身に覚えがあるよう

な項目だと思う。大人の今でさえ、帰り道の立ち話や雑談は楽しくてやめられないでいるのだから。

子どもたちは、その道を通ること自体に何らかの楽しみを見いだしており、子どもの健全な発達には、健全な道くさを可能とする地域の環境が必要である、という結論にも深く頷かせられた。

仏教のはてなき道程からみれば、そもそも人生なんて道くさばかりで、詮ずる所、すべてが遠まわりといっても過言ではないのかもしれない。夢中で嬉しいこと悲しいことを繰り返しているうちに、チクタクチクタクと時が刻まれてゆき、いつの間にか古時計のように動かなくなり、解体されて灰になってしまふことだろう。

さて、わが息子が想いを寄せるアメリカに旅立ったおじいさんはその後どうしたのだろうか。おそらく順調にイギリスを越え、大西洋を越えて、地図も持たぬまま、ゴールドラッシュに沸く遙か西方の黄金郷を目指して歩み出したことだろう。途上の道くさでふと目を落とせば、路端に花々が咲き誇り、微風に揺られながらおだやかにほほ笑みかけている。おじいさんはきつと気づいてくれるはずだ、その花は古時計の生まれ変わりなのだと。そんなロマンあふれる空想の続きを、いつか息子に贈ってあげたい。

法然上人鑽仰会の経過 後編

中里介山氏の還愚

のすすめ

佐藤賢順

(法然上人鑽仰会の) 準備委員代表者は再三
関西方面に飛んで関西との提携連絡を計る。
一月にはいよいよ実働に移って、仮事務所を開
いた。二月十二日遂に機関紙『法然鑽仰』創
刊号が出て、会設立の趣旨、会の事業計画を
詳細に発表した。その発送が一通り終わると、
各地の絶賛は嵐のごとくに巻き起こった。「法
然上人」のみ名のもと、日本全国の同信の和
合協力によって、この聖業が着々と実現され
ていき、同信の発願が次第と成就されていく
見通しがつき、会の多幸なる将来が約束され
たのである。

× × ×

事務所の壁には内地各府県別、それに台湾、
北海道、樺太、朝鮮、満州、更にハワイ、南
洋まで加えて、会員の増加表が貼られた。会
員数を赤線で太く示して、会員の増すごとに
赤い線が上昇していく、まるで寒暖計の水銀
のように。

山口県二位がしばらく続くと、一躍大阪府
がぐんぐん伸ばしてきて、山口県をリードし
てしまった。その翌日にはまた京都府と大阪
府の競り合いが始まる。その翌日にはリード
された山口県がぐんぐんピッチをあげてくる。
それよりも嬉しいのは、ハワイ、南洋にポツ
リポツリ赤い点——これは未だ線にはならな
い——が出来てくることだ。実にこのバロメー
ターは同信の熱情と意志の測度計である。

× × ×

三月一日の夕べ、『法然』の著者中里介山氏

さとう・けんじゅん 1899(明治32)年～1962(昭和37)年。東京生まれ。品川・願行寺28世。西洋哲学、宗教学者。宗教大学(現大正大学)で宗教部、早稲田大学の西洋哲学専攻科で学ぶ。法然上人讃仰会設立に参画、また仏教信仰のラジオ放送を行う。著書多数。

を招いて色々となら上人を語り合つた時の話……。

「教団の中に居て、上人の人格にあまり慣れ過ぎてゐる者には考え方が型にはまつて、かつて真に偉大なる所が見えない。まったく純粹に自由な立場に在つて、芸術的直感を多分に持つてゐる人の話には、傾聴すべき点が少くない」

——もし上人の偉大なる点を現代に生かすとしたら、特にどういう点を強調したらよいとお考えですか。

「そうそう、とにかく円満と言いますか、完全と言いますか、実に完成されていて、特にどの点とも言えないでしょう。」

私は自著『法然』の中で上人の特色を五つばかりあげておきましたが、しかしいずれかの点の一つ取つて、特にそれを強調すれば、完全さが失われてしまうのでね。例えば上人の

強さと言つても、それは決してただの強さではない。何か言い張るとか、盾を突くとかいう強さでは決してない」

——円満ということの中に持つた強さとてもいいですが、弱さの強さ。

「そうですね。そう言つてもよいでしょう。しかし特に現代に生かすとしたら、還愚という点でしょうね。自分の愚かさに目覺めたという事は、これは大した事です。

知識万能・科学万能の教育が現代の行き詰まりを招いたのですからね。愚痴に還るという点は滅殺に強く教えなければいけないでしょう」

——智慧第一であつたからこそ愚痴に還れたのですね。

「そうですね」

三月といつても春はまだ浅く、みぞれが時庭の樹々を騒がせていた。

(了)

編集後記

ウィズコロナの新しい生活様式が模索され、定着し始めている。まだしばらくコロナ禍に悩まされそうだが、いずれ収まる日は必ず訪れ、今を振り返る日がくる。社会構造や環境、様々な出来事などの時代背景が、いつの世でも生活スタイルや思考回路を作り上げていく。

今月の巻頭を飾る「式子内親王遺文」、平安・鎌倉時代を生きた法然上人の時代を描いた『式子内親王伝』で紫式部文学賞を受賞されている作家、石丸晶子氏の書き下ろし小説だ。

浄土宗との縁の深い作家の一人で、ご存知の方も多に違いない。本誌でも何回か式子内親王と法然上人を描いた小説

を寄せていただいている。

瞬く間に日本中に広がった「念仏を申せば救われる」という法然上人の教え。これも平安・鎌倉という時代背景あつてのものである。そこで、この新連載を小説として楽しんでいたくとも、法然上人の生きた時代を知っていたく仕掛けを次号よりお届けする予定だ。乞うご期待。

1月号から始まったぐんじまんさんの漫画が好評だ。ぐんじまんさんは浄土宗二祖、聖光上人を博士論文にされた中堅浄土宗僧侶で、とても多才なお坊さんだ。絵はヘタウマ(?)だが、味のある絵で展開されるその内容で、迷うことなく連載

依頼をさせていただいた。本誌にとつてありがたい連載になりそうだ。独特のタッチの絵を楽しみながら、祖師方を知る絶好の記事に御礼。

(村田)

編集部長 編集部員

村田洋一
斎藤晃道
佐山哲郎
青木照憲
平井泰代子
本原亮道

浄土

八十七巻 四月号頒価六百円
年会費六千円

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可

印刷 令和三年三月二十日

発行 令和三年四月一日

発行人 佐藤良純

編集人 長谷川岱潤

印刷所 株式会社 暁印刷

〒一〇五・〇〇二

東京都港区芝公園四七四明照会館四階

発行所 法然上人鑽仰会

電話 〇三三五七八六九四七

FAX 〇三三五七八七〇三六

振替 〇〇一八〇・八・八二八七

雑誌『浄土』

特別、維持、賛助会員のの方々

飯田実雄(駒ヶ根・安楽寺)
巖谷勝正(目黒・祐天寺)
魚尾孝久(三島・願成寺)
加藤昌康(下北沢・森厳寺)
河本悠大(函館・称名寺)
糸原恒久(川越・蓮馨寺)
糸原勇慈(甲府・瑞泉寺)
佐藤孝雄(鎌倉・高德院)
佐藤久雄(品川・願行寺)
佐藤良純(小石川・光圓寺)
東海林良昌(塩釜・雲上寺)
高口恭典(大阪・一心寺)
中島真成(青山・梅窓院)
中村康雅(清水・実相寺)
中村瑞貴(仙台・愚鈍院)
成田昌憲(世田谷・大吉祥寺)
野上智徳(静岡・宝台院)
長谷川岱潤(東京・戒法寺)
藤田得三(鴻巣・勝願寺)
堀田卓文(静岡・華陽院)
本多将敬(両国・回向院)
松濤泰彦(芝・寶松院)
水科善隆(長野・寛慶寺)

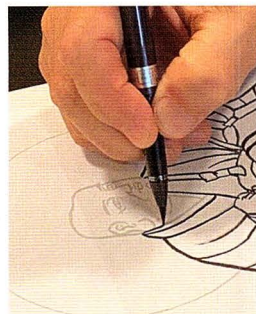
(敬称略・五十音順)

ホームページ jodo.ne.jp/

メールアドレス hounen@jodo.ne.jp

写経、写詠歌、写仏申込書

- 1 A4版の奉書の手本に筆ペンで直接なぞります。
- 2 写仏の仏画は仏師（前田昌宏師）のオリジナル。
- 3 写経は浄土宗日常勤行式です。
- 4 写詠歌は法然上人四季の和歌と宗歌「月かげ」他。



申し込み日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

お名前 個人 _____

寺院 _____ 教区 _____ 組 _____ 寺・院 _____ 寺院番号 _____

お電話 _____

ご住所 〒 _____

写仏(1セット6枚5組) 頒価:5,000円 _____ セット

写経(1セット12枚5組) 頒価:6,000円 _____ セット

※寺院名 () 入れる(無料) 寺院名 _____ () 入れない

※三奉請(関東)と四奉請(関西)をお選び下さい。() 三奉請 () 四奉請

写詠歌(1セット5枚5組) 頒価:3,000円 _____ セット

※送料、消費税は頒価に含みます。同封の請求書でお支払い下さい。

※お届けまで2週間ほどかかります。

《お申し込みは本頁をコピー、ご記入の上、当会へご注文下さい》

法然上人鑽仰会

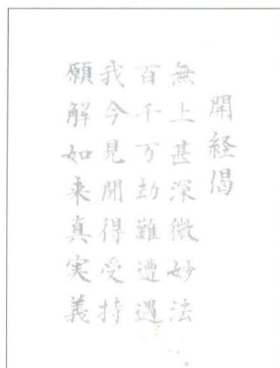
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館4階

FAX : 03 3578 7036 Mail : hounen@jodo.ne.jp

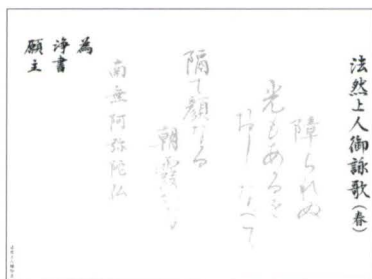
TEL : 03 3578 6947

写経・写詠歌・写仏 のご案内

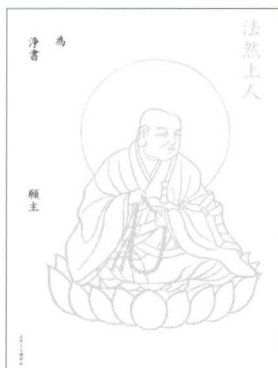
法然上人鑽仰会
からの
お知らせ



【写経】開経偈



【写詠歌】春の歌



【写仏】法然上人



●コロナ禍で在宅時間が多くなった檀信徒の皆さんに浄土宗の日常勤行、法然上人のお歌、そして法然上人の姿や仏様の姿を写していただけの写シリーズです。



写仏は前田昌宏師のオリジナル

- 写経は浄土宗勤行式で、お寺の名前を入れられ、三奉請、四奉請が選べます。
- 写詠歌は宗歌「月かげ」と法然上人の四季の歌。
- そして、写仏は浄土宗僧侶であり仏師である前田昌宏師のオリジナル原画を写せます。

《お申し込みは裏面へ》

お試しセットは
3月末日をもって
終了致しました。

多くのお申し込みをいただき、ありがとうございました。

法然上人鑽仰会